

## 第1回 大阪・関西万博きょうと推進委員会 議事要旨

### 1. 日時・場所

日時：令和5年5月29日（月）16：00～17：30

場所：ウェスティン都ホテル京都 西館3階「コスモスホール」

### 2. 出席者

#### 【委員】（18名）

山極委員（座長）、西脇委員、門川委員、塚本委員、村田委員（以上共同代表4名）、池坊委員、ウスビ・サコ委員、小川委員、榊田委員、汐見委員（代理出席）、千委員、田中委員、平尾委員、堀口委員、堀場委員（代理出席）、前川委員、村尾委員（代理出席）、山地委員

#### 【オブザーバー】

伊吹オブザーバー、日向オブザーバー（代理出席）

### 3. 議事概要

- ・冒頭、座長あいさつの後、事務局から推進委員会の体制及び会則について説明を行い、委員の承認を得た。
- ・共同代表4名があいさつを行い、オブザーバーの近畿経済産業局及び文化庁から、推進委員会へのエールをいただいた。
- ・事務局から、基本構想（案）について説明の後、基本構想が決定された。
- ・事務局から、アクションプランとアクションプランに反映させる取組例について説明し、プラン策定について決定された。また、取組例について各委員からご意見をいただいた。
- ・事務局から、若手部会（仮称）の構成イメージや発足メンバー、認証制度の創設について説明した後、各委員からご意見をいただいた。

#### <座長あいさつ>

- ・大変重要な議題を審議する場になる。
- ・京都議定書はその後のSDGsの採択にも繋がり、現在に至るまで力を失わず、むしろ未来へ向けて様々な国が環境問題に挑んでいるが、このような環境の文化は、2025年の大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」にぴったりと当てはまる。「京都万博」と言ってもよい。
- ・中心は大阪だが、大阪にはできないことを京都でやろうと思っているので、皆さんから多くの知恵を拝借したい。

## <共同代表あいさつ>

### ◆西脇委員

- ・ 京都は、まさに大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」がぴったりはまる。人とか自然とか、様々な命を大事にしながら、1000年を超えて文化を受け継いでおり、それが生活の至るところに根づいている。しかも文化を土台に、産業、観光、食、教育、様々な活動が発展してきた。
- ・ 文化庁の京都移転を契機に、大阪・関西万博も一つのターゲットイヤーとして文化の発信につなげていきたい。
- ・ 委員の皆様と基本構想に基づく具体的な取組や機運醸成のイベント開催、情報発信などを、一層強化して参りたい。
- ・ 2800万人の来場者が予定されているが、すべての人に京都に足を運んでもらう、そういう意気込みで頑張りたい。

### ◆門川委員

- ・ かつての万博は一方向的な発信であったが、直近のドバイ万博では対話が一番重視され、社会課題の解決がテーマに。さらに、大阪・関西万博では「命」をテーマに環境問題や持続可能な社会を目指した人々の生き方、社会のあり方等も議論されている。
- ・ 大阪・関西万博では、4つのゼロ、CO2ゼロ、ゴミゼロ、ファッションロスゼロ、食品ロスゼロを真正面に掲げており、このことも含めて、環境・SDGs先進都市京都の強みがしっかりと生かせる万博である。
- ・ あらゆる改革を今、オール京都で進めている中で、しっかりと社会課題の解決やSDGsの達成も意図した取組ができる。皆様と一緒に頑張りたい。

### ◆塚本委員

- ・ 万博の開催まで700日を切り、万博の取組を国内外に広く発信し、認知度を高めていく上で重要な時期。今後は「大阪・関西万博」京都支援協議会でもオール京都の推進委員会と連携をしながら、より強力に取組を進めていきたい。
- ・ 万博を契機に、京都経済の未来を担う若手起業家や、地域発のベンチャーの育成、情報発信についても推進委員会でも取り組んでいきたい。
- ・ 関西における京都の強みを発揮し、万博による経済効果が、京都全域での取組や京都経済の活性化に繋がるよう、支援と協力をお願いしたい。

### ◆村田委員

- ・ 進歩を目標にしていた1970年の大阪万博に対し、今回の大阪・関西万博は、人間の生きざまや命を取り上げている。これは環境と健康など、これからの日本の目標として非常に時機を得たテーマである。
- ・ 京都は、大都市でありながら川に鮎が棲むという恵まれた環境の中で豊かな食文化が育ち、世界に誇るユニークな産業も発展してきた。大阪・関西万博に来た人たちが、京都にも足を運んで、東京だけが日本でないということを知ってもらい、学術都市の京都、産業都市としての京都、文化都市としての京都をつぶさに見て知ってもらえるよう取り組んでまいりたい。

## <主な意見>

- ・京都府は非常に広いので、地域の様々な魅力を抜き出し、それを繋ぎながら、京都の魅力を一体として盛り上げていきたい。
- ・川をキーワードにすると、様々な地域や産業などが繋がる。その視点を生かしてアクションプランを作っていくとよい。
- ・(取組例の「きょうと大茶湯」に関して) 地域のお茶好きな人たちによって、地域のお茶や地域の名水の井戸水を生かした菓子などを持ち寄って行うやり方が、「大茶湯」という言葉に通じるものであり、未来に繋がるのではないか。
- ・京都のイノベーティブな部分を出してほしい。
- ・アクションプランを進めるのに、ワーキンググループを作ってはどうか。
- ・一部分だけの展示ではなくて、見える部分の前後を感じさせ、命の繋がりをも想起させるようなフレキシブルな発想で取組んでいくとよい。ひいては、ささやかでも社会課題の解決に繋がる一歩になるのではないか。
- ・万博の半年間、京都の様々な場所で、様々なことが行われている状態を作り、デジタルを活用して、多言語で世界からいつでも見られて、申し込みできるようにするなど、インフラを整備し、混乱なく京都に来てもらうことが必要。
- ・マルシェのようなイベントを毎週実施、その中で文化体験や伝統工芸の実演などが見られるようにしてほしい。
- ・約15万人が大学生で、その1割が留学生である京都の特色を生かし、どのようにおもしろい京都を打ち出すかが重要である。
- ・認証制度では、多様な性・年齢からなるプロジェクトを広く認証していくべきであり、万博で終わるのではなく、未来に繋がるかどうかを特に考慮したい。
- ・若手部会は、動ける人間、特に大学生をもっと活用すべき。また、日本の文化圏ではない人材を若手部会のメンバーにするのもよい。
- ・認証制度創設にあたり、認証のロゴを作りたい。デザインを若手部会に任せてはどうか。